



イヌはどうしてほえるの

人間がことばを話すのと同じ

人間でも、まだ、泣くことしかできない赤ちゃんは、泣き声や、泣き方で、お母さんに、自分が何をしてもらいたいのかを伝えています。イヌがほえるのも、同じです。人間や、イヌの仲間に、自分の気持ちや伝えたいことを、ほえることで伝えています。

悲しそうな声で、「クーン、クーン」となくのは、何か助けてもらいたいときです。子イヌなら、心細い、さびしいときです。

かん高い声で、「キャン、キャン」となくのは、どこかけがをしたり、いたいところがあるときです。けんかに負けたときなども、自分が負けたことをみとめて、「こうさん」というように、「キャン、キャン」となくことが多いようです。

はげしく「ワン、ワン」とほえるのは、見知らぬ動物や人が、近づいてきたときなど、警戒しているときです。「ウー」といううなり声が、まじる場合が多いです。

ふつうに、短く「ワン」と軽くほえるときは、飼い主に向かって、自分に注意を向けてくれ、といっています。イヌが、ちょっとあまえているときです。

遠ばえは、野生のイヌの習性

人間に飼われる前は、イヌは、群れをつくって生活していました。そのころ、かりに行くときなど、群の仲間を集めるのに遠ばえをしました。仲間と連絡をとりあう方法の一つだったのです。仲間の1ぴきが遠ばえを始めると、次々、声を合わせて遠ばえをする習性が残っているもので、サイレンや、物ほしぎお売りの声などに合わせて、「ウオーン」と遠ばえをすることがあります。（監修・今泉 忠明）

